

4 番 平 野 初めに前置きです。昨年12月の全協で討論は1,500字以内と制限されました。その後、それを提案された田代議員が過去を調べてくださって、もう少し長くやっていた事例が見つかったので2,000字でもいいというふうなことを言われましたので、そうさせていただきます。

では、討論に入ります。議案第14号令和3年度予算案に原案賛成の立場から討論いたします。

今回の争点は4つ。新松田駅北口駅前広場整備、ジビエ処理施設、再生エネルギー補助金、そして議会タブレット導入です。委員会では、このうち新松田駅北口駅前広場詳細設計業務委託料の債務負担行為1億2,500万円を削除する修正を行いました。ほかは凍結です。凍結というのは、条件つきで認めるという意味です。

駅周辺整備は、第6次総合計画に明記されています。これは先ほど委員会報告にもありました。この総合計画は、2018年春、町民アンケートから始まり、町民も含む審議会が何度も検討して練り上げ、議案として上程され、議員の賛成多数で2019年春、承認されました。そのときにも財政推計とともに検討いたしました。懸念されていたのは、実質公債費比率、こういう数字があります。2035年に13.4%ということでした。その前後の年も13%台というのが予想されていまして。今回の財政推計では、2034年に13.0%が最高で、前後の年それぞれ12.6、12.9となり、僅かながら改善になっています。他市町の議員からは、総合計画審査に財政推計も見るということに驚かれます。当議会は数字の裏づけもして総合計画を承認していて、すばらしいことです。

では、なぜ今回その目玉と言ふべき新松田駅北口整備を削除するのでしょうか。財政推計を鑑みということですが、財政指標は総合計画のときと比べて悪化したわけではなく、むしろ少し改善しているのは先ほどのとおりです。コロナの影響も指摘されましたが、松田の税收減収率は2.2%、これは県下最少です。詳細設計に入れば現実となり後戻りができないという意見がありました。現実が見えてきたからストップするというのはどうなのでしょう。これまでも準備をしてきて、やがてこの段階を迎えることが最初から分かっていたのに、

見えたらストップというのは、寡聞にして存ぜぬという振る舞いに思えます。

一旦止めて勉強会をするという意見もありました。勉強会をするなら、もっと早く始めていればと悔やまれます。議員の勉強のために計画中断というのは、町民の理解が得られるでしょうか。議員のチェック機能、議会のチェック機能ということを改めて考えてほしいです。私も議会の機能の一つとして重要だと思っています。今回のように大きな数字が示されれば立ち止まって考えたい。それは誰だってそうです。議員じゃなくても、大きな買物をするときには不安になったり、慎重になったり、時にはキャンセルすることもあります。しかし、議員のチェックがそれと同じでいいのでしょうか。

先般の公園条例改正では、有料化に多くの議員が反対しました。公園は有料化してはならない。そう、私だってただで使っていたものを有料化するなんてと個人的には思います。各事業について数字が示され、これは大きな出費だ、いや、施設は無料がいいと言うことは誰でもできます。それが議会のチェック機能であれば、議員は町民のローテーションでいいんじゃないかと思っています。

議員がチェックする際、考慮しなくてはならないのは、町民の総意であった総合計画であり、まちづくりに対するビジョン、そして議員一人一人の公約です。それは、絵に描いた餅でしょうか。きれいごとを並べただけでしょうか。総合計画承認後の議員選挙で駅周辺事業を公約にはっきり書いた議員もいます。今回凍結要望の再エネについてもうたった議員もいます。町の活性化、人を呼び込んでにぎわい創出、農林業再生などの言葉を選挙で使わなかった議員がいるでしょうか。総論賛成、各論反対という現象が度々起きるのはなぜでしょう。理想と現実は違うということでしょうか。魔法はありません。目指すビジョンに少しでも近づくために、まず一步踏み出さなければ、いつまでも絵空事です。その一步がとても難しい。誰だって怖い。でも、やらなければ昨日と同じ明日、去年と同じ来年。でも、人口減少は進みます。町はじわじわと廃れます。やがて近隣の町に重要施設ができれば松田は二度と浮上できません。松田町が人口研究所の見直しで減少予測を多少改善されたのも、ほかの町がやらないことを考えながら一步一步進めてきたからです。前例がないことをやる覚悟、そして

知恵、それを厳しくチェックしながら、どうやったら実現できるのかを考えるのが議会に期待されていることではないでしょうか。

委員会では、駅周辺地域整備促進支援業務委託料900万円は認めているので、交渉がストップするわけではないという意見も出ていました。が、設計もなく予算の裏づけもない中、国、県、小田急、ＪＲ、地権者など、どうやって具体的な話をするのでしょうか。町が本気を見せなければ、せっかく積み上げてきたものが中断し、また話が再開できたとしても１年の停滞は大きい。信頼を取り戻すのに倍以上かかるでしょう。そのほうが結局税金の無駄遣いにならないとも限りません。

したがって、私は債務負担行為の削除、修正も、またほかの凍結要請もしないで原案に賛成いたします。委員会独立の法則により、本会議場での採決は縛られませんので、どうか一人でも多くの賛同をお願いいたします。

議

長 原案賛成者の討論はほかにございませんか。原案賛成者の討論を打ち切ります。